

み心が成りますように

ルカによる福音 1:26-38

天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」マリアは天使に言った。「どうして、そのようなことがありえまじょうか。わたしは男の人を知らないのに。」天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。神にできないことは何一つない。」マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」そこで、天使は去って行った。

説教

イエスの誕生の予告「受胎告知」が今日の聖書箇所です。ルカの福音書はこの事情を詳しく伝えています。

ヨセフと婚約中のマリアの元に天使ガブリエルが遣わされて神の子イエスを受胎すると告げます。マリアはとまどいこう答えました。

マリアは天使に言った。どうして、そのようなことがありえまじょうか。わたしは

男の人を知らないのに。ルカ 1 : 34

しかし、ガブリエルはマリアの訴えに耳をかさしません。

神にできないことは何一つない。ルカ 1 : 37

マリアはこう答えます。

マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に**成りますように**。」そこで、天使は去って行った。(新共同訳ルカ 1 : 38)

英語訳では同じ箇所、ルカ 1:38 はこのように訳されています。

Then Mary said, "Behold the maidservant of the Lord! Let it be to me according to your word." And the angel departed from her. (New King James

Version ルカ 1 : 38)

マリアさまの受胎告知の返事は日本語では「この身に成りますように」、英語ではレット・イット・ビー となります。また聖書のことばとは別に「レット・イット・ビー」はビートルズの楽曲として世界中で親しまれています。

When I find myself in times of trouble	私が悩み苦しんでいるとき
Mother Mary comes to me	聖母マリアが私のもとを訪れ
Speaking words of wisdom	叡智の言葉を話してくれる
Let it be	「神のみ旨のままになりますように」

受胎告知のマリアさまの返事がそのまま題名となっている「Let it be」は、「わたしが悩み苦しんでいるとき」不幸な出来事を前にして落ちこみ、苦しんでいる私たちによりそうように始まります。マリアは作詞者ポール・マッカートニーのおかあさんの名前だよと身もふたもないことという人もいますが、クリスチャンにとってマリアといえばただ一人聖母マリアです。

わたしたちに主の豊かなめぐみがありますように。メリークリスマス。
